

## <意見結果のまとめ>

第1回及び第2回円卓会議の意見結果より、各テーマに対する評価点と課題点、課題に対する取組のアイデアについて以下に整理する。

### (1) 創造性の土を耕す

#### 1) 多彩な芸術文化に親しむ機会の提供

##### ①評価点

###### ■取組が市民に定着してきている

- ・ 現在実施しているイベントなども市民に定着してきている。

###### ■文化芸術に親しむ機会が多い

- ・ PMF、市内の無料コンサート、サッポロ・シティ・ジャズ、琴似での JAZZ など様々な取組が行われている。ただし、PMF は少し高いため回数はあまり多くは行けない。
- ・ 誰もが見ることができる場所に 500m美術館、チカホなどのアート展示場がある。広く一般の人達の目の届く所にアートがあることは、長い目で見るととても意義がある。

###### ■演劇に力を入れて取り組んでいる

- ・ 演劇について、抽選で選ばれた高校生が無料で鑑賞できる取組も行っていて良い。
- ・ 演劇シーズンの時期になると地下鉄駅などでポスターを掲示して広報しており良い取組だと思う。

##### ②課題点

###### ■特徴的な取組が無い

- ・ 色々な取組を行っているが、突出した取組がない印象である。

###### ■取組は多いが情報が市民に伝わっていない

- ・ 色々行っているが情報が市民に伝わっていない。
- ・ 写真展や子ども写真教室、民間の取組事例が多くあるが、横の連動（情報）が不足している。
- ・ 札幌はフェスティバルシティでいつも何か行っているが、情報発信が不足している。

###### ■民間で芸術文化に触れる機会を提供する環境が整っていない

- ・ 民間の画廊では採算が合わない、建物が無いなどの理由で閉店してしまっているのが残念に感じる。

#### 2) 文化芸術のための施設整備・活用等

##### ①評価点

###### ■施設は充実しており、意欲的に取り組んでいる

- ・ コン서트ホールや美術館などが多彩なのは札幌市ならではのあり、他の都市に比べて良い施設も多く、施設としては不足がない。
- ・ オペラ、天神山アートスタジオなど意欲的に取り組んでいる。

###### ■天神山アートスタジオの取組を評価する

- ・ 前回初めて天神山アートスタジオの話を聞いたのと、自分で取組みを調べて評価が上がった。
- ・ 天神山アートスタジオは色々な国からアーティストが来ているため多文化で意見交換できる。近隣の住民との朝食会を行うなど地域とのつながりも生まれている。
- ・ 天神山アートスタジオのアーティスト利用者数が増えていることや、既存の施設活用の話など、知らなかったので評価が上がった。

■市民交流プラザの建設していることを評価する

- ・ 市民交流プラザを建設していることを評価する。
- ・ 期待している。様々な要素が集まって都心にできることは意味がある。総合的な施設になってほしい。

■その他

- ・ 学校の施設を活用していること。

②課題点

■天神山アートスタジオの市民利用やPRが足りていない

- ・ アクセスを良くするなど、もっと広く色々な人が利用できる工夫があっても良い。
- ・ 天神山アートスタジオは良いことをしているがPRが足りていない。もっと全市的に知らせていくべきである。

■既存施設の修繕などにより活用してもらうための工夫が必要

- ・ 既存施設を修繕するなど、市民に足を運んでもらう工夫が必要である。

■各施設の内容が充実していない

- ・ 施設の数はあるが、エデュケーションプログラムが足りない。
- ・ 特に冬のアクセスが悪い芸術の森美術館などは、行きたいと思わせる取組を行うことが必要。
- ・ ハードについては充実しているが、多様な展示に対応できるなどソフトについてもしっかりと取組んでほしい。

③取組のアイデア

■天神山アートスタジオを広くPRする

- ・ 天神山のパンフレットは、現在はアーティスト目線の情報しかないように感じるため、市民目線の要素も加えた方が良い。

■施設の内容を充実させる

- ・ 500m美術館など無料の施設の方が内容が充実している。専門家へのヒアリングなどで取組内容の充実を図ることが求められる。
- ・ 取組内容について、500m美術館、北3条通り、チカホなどでアンケートを取ると良い。
- ・ 施設を上手く活かして、もっとチャレンジした新たな取組などを考えてほしい。

■その他

- ・ 冬も楽しめる施設があると良い。

### 3) 将来の文化芸術活動を活性化させるための調査・研究

#### ①評価点

##### ■アンケートは継続することで定量的なデータとなる

- ・ 情報提供によりアンケートをやっていることが分かったため、評価が上がった。
- ・ H23年とH26年の意識調査を比べると見えてくるところがあると感じた。これからも継続し、定量的なデータとすることで有効なものになる。

#### ②課題点

##### ■意識調査の活用方法の検討、内容の充実が求められる

- ・ アンケートの結果をどのように活用するかが見えない。
- ・ 設問項目がアーティスト目線から言うと足りないところがある。内容をしっかりと見直してほしい。
- ・ アートや芸術は数字にしにくいところがあり、データのとり方が難しい。
- ・ アンケートの内容が毎年同じだが、分析が足りていないと感じる。

#### ③取組のアイデア

##### ■円卓会議の内容や結果を広く知らせる

- ・ 円卓会議は委員の募集等についてもっと早い段階で情報発信を行い、委員ではなくてももっと色々な人が来て観られるようにオープンにすると良い。
- ・ 円卓会議の結果を広く発信するなどアピールし、一般の人の目に触れるようにすべきである。

##### ■意識調査の内容を充実させる

- ・ 今のままだと使えるデータではない。市外や道外の政令指定都市の意識調査と比較してはどうか。
- ・ 市民だけでなく、専門家の意見を聞く調査も必要である。

##### ■より多くの人の意見を聞く場を設ける

- ・ できるだけ多くの人の意見を聞くべきである
- ・ 円卓会議で行ったように、市民に評価してもらう取組をチカホで実施し、用紙の巨大版を貼って通る人にシール投票してもらってはどうか。

## (2) 創造性の種を蒔く

### 1) 子どもたちの文化芸術活動の充実

#### ①評価点

##### ■子どもたちの文化芸術活動は充実してきている

- ・ 昔に比べると積極的にしっかりと取組んでいると感じた。
- ・ 幼児向けの取組は無いと思っていたが、取組んでいることを評価する。今後にもっと期待する。
- ・ アート系の取組だけでなく、音楽系の取組も行っており評価する。

##### ■おとどけアートの取組を評価する

- ・ 小学校のおとどけアートはすごく良かった！親も学校に行って楽しそうにしていた。
- ・ おとどけアートによって、アーティストが身近になっている。

##### ■kitara ファーストコンサートの取組を評価する

- ・ Kitara は立地の関係からか行きにくいと思われがちだが、kitara ファーストコンサートは子どもたちの良い思い出になっており、音楽に触れるきっかけになっている。

##### ■子どもたちが芸術文化に触れる機会は重要である

- ・ 市民のレベルを上げるには同じ分野のものに何度も触れる機会があると良い。
- ・ コンサートなどを観に行くと TV や CD と違う臨場感がある。
- ・ 子どもにとっては得意なものでもなく、窓口の広い体験の場が必要である。

#### ②課題点

##### ■アーティストが育たない、就職の場がない

- ・ 人材が育成されていない。それに対する市の支援を感じない。
- ・ アーティストの就職の場がない。
- ・ 絵や彫刻などの人材が育っても、経済的に自立することは難しい状況である。

##### ■発表の場が限られている

- ・ 文化芸術を鑑賞する機会は充実しているが、発表する場は限られている。

##### ■親世代のアートへの関心不足

- ・ 親の興味がないと子どもにもきっかけがなくなる。美術館などは子連れで行けないイメージがある。
- ・ 主婦に聞いても、行きたいところなどすぐに出てこないため、みんな興味がないのではないかな。もう少し若い人向けにできることがあると思う。
- ・ 海外では、美術館でベビーカーが多い。札幌でもそのようにするには、どのような取組が必要なのだろうか。

#### ③取組のアイデア

##### ■中高生を対象にした文化芸術活動の充実

- ・ 小学生以下を対象とした取組が多いので、中高生の体験プログラムなどを増やす。

##### ■文化芸術教育の充実

- ・ ヨーロッパのように美術館を学校教育で使用するときは無料にしてはどうか。
- ・ 絵画や彫刻など本物に触れながらの授業が札幌でもできると良い。

## 2) 文化芸術を活かした様々な事業との連携強化

### ①評価点

#### ■文化芸術と観光産業との連携（その可能性）を評価する

- ・ 道外の人が芸術鑑賞のために来道し、ついでに観光をするという人もいる。
- ・ モエレ沼公園、芸術の森美術館は観光の素材になっている。

### ②課題点

#### ■連携する目的やメリットが明確でない

- ・ 連携のイメージが曖昧で、連携するメリットが明確でない。
- ・ 連携することの目的と効果を明確にするべきである。
- ・ 連携は様々な土台ができてからの次のステップなので、まだ手がまわっていないと思う。

#### ■施設間連携の取組が市民に還元されているか疑問

- ・ 芸術の森美術館での取組みを他の施設で実施するという連携は行なっているが、効果があまり見えない。事務局側の情報共有や交流の場にはなっているが、市民に還元されているかは疑問。

#### ■教育機関との連携が少ない

- ・ 大学（市立大等）との連携とは何を行っているのか見えない。
- ・ 平岸高校では真駒内駅や市のポスターなどをつくっているなど、製作する物はあるが、マネジメントのための活躍の場がない。

#### ■その他

- ・ 福祉とアートの相性はいいと思うが、繋げる人がいないのが現状である。
- ・ 観光産業との連携はもっと進められるのではないかな。

### ③取組のアイデア

#### ■空き家・空地の活用の推進

- ・ 空き家、空き地の活用はぜひやるべき。行政主導でやってほしい。アーティストは使える場をさがしており、情報をもらえるだけでも良い。
- ・ アーティストは、天井が高くて汚しても良い空き家などを求めている。
- ・ ある一部のエリアをアーティスト街にしていくなど出来ると良い（NY や北京などでは実施されている。）その場合、どのようなアーティストでも入れるのではなく、ある程度規定があると良い。
- ・ 現在の取組はエリアが限られているため、もっと広げられると良い。

#### ■映画や文学の舞台となった札幌を活かす

- ・ 札幌は、映画の舞台になったところも多い。数多くの文学の舞台にもなっている。素地があるので、活かすと良い。（例：フィルム・コミッション、映画の舞台を巡る聖地巡礼ツーリズムなど、旭川市の三浦綾子さんをめぐるイベントみたいなもの）

#### ■美術大学や芸術大学があると良い

- ・ 美術大学や芸術大学が北海道にない。北海道で勉強したいというアーティスト希望の方も外に出なければならない、もったいない。北海道はアートに取組むのにとっても良い環境だと思う。

### (3) 創造性を実らせる

#### 1) アーティスト等のステップアップ促進

##### ①評価点

###### ■天神山アートスタジオの取組を評価する

- ・ 天神山アートスタジオは道外アーティストにも評価されている。市の主導でこのような取組を行っているのは珍しい。
- ・ アーティスト同士のネットワークもできている。
- ・ 近隣住民との交流もある。
- ・ 他の場所にもアーティストインレジデンスはあるが、ハードがこんなに素晴らしいものは日本で他にはない。

###### ■演劇の支援は進んでいると感じる

- ・ 演劇シーズンでは、目に見えて観客が増えてきている。

###### ■実際に支援でステップアップできた

- ・ 広報はあまり行き届いていないと思うが、実際に支援してもらってステップアップできたため、十分取り組んでいると思う。

##### ②課題点

###### ■アーティストの仕事が無い

- ・ 札幌が、アーティストが食べていけるまちになると良い。
- ・ 演劇は、演劇シーズンなどの支援があり良い方だが、まだ持ち出しはあり、それだけでは食べていけない。演劇以外の分野はもっと厳しいと思う。

###### ■アーティストバンクが実用的でない

- ・ アーティストバンクでは、募集要項が不明確でどのような人を求めているのかわかりづらいため、アーティスト自身も応募しづらいのではないかと。
- ・ 現在のアーティストバンクはただ登録するだけで更新もされていない。
- ・ アーティストの掘り起こしをしていくと良い。

###### ■育成のプロセスが不足している

- ・ アーティストを育てるプロセスが充実していない。
- ・ ステップアップのための、他と戦えるような技術的支援が必要である。

##### ③取組のアイデア

###### ■アーティストの発表の場の充実

- ・ 素晴らしいアーティストがいても発表の場が少ないことが残念である。
- ・ プロでなくても、成果を出している学生サークルや部活がある。小中高生の発表の場を増やしていくと良い。

###### ■アーティストバンクの改善

- ・ アーティストバンクに登録する際に審査があると良い。活用する人が信頼できるものにしたい。
- ・ 美術館がアーティストバンクに取組んでいる例もある。これを支援できる仕組みがあると良い。

###### ■アーティストへの資金面での支援

- ・ 市がアーティストにカードを発行し、画材が通常より安く購入できる仕組みがあると良い。カードの発行は公募にて審査を厳しくすると良い。

###### ■企業によるアーティスト支援の充実

- ・ 企業のメセナ活動をもっと進めてほしい。そのためには企業側のメリット（例えば、容積率アップなど）も必要である。
- ・ 画家を企業が支援する仕組みができると良い。それが出来れば、若いアーティストなど今はできる範囲で活動している人達の幅がもっと広がる。

## 2) 文化芸術をつなぐ新たな役割の育成

### ①評価点

#### ■ボランティア制度の取組を評価する

- ・ 行政が直接進めるのは難しいことだと思うが、文化芸術の分野でのボランティア制度などに意欲的に取り組んでいる。
- ・ 芸術祭ではボランティアの熱気がすごかったと聞いた。

#### ■インタークロスクリエイティブセンター（ICC）を評価する

- ・ ICC はクリエイターにとってとても貴重な場所になっている。利用料が安価で、横の連携ができ、世界と繋がる事ができるといった点で、映像産業の底上げに貢献している。

### ②課題点

#### ■アートマネジメントの人材育成支援が進んでいない

- ・ 前回の円卓会議でアートマネージャーになるにはどうすれば良いのかという話があったが、まだ解決されていない。
- ・ アートマネジメント育成に対する支援はほとんど感じない。
- ・ シンポジウムや講座などがあっても、実践に対する支援がない。アートマネジメントの職についている方のほとんどが現場に入って今の職についている。講座だけでは育たない。

#### ■アートボランティアの人材育成支援が進んでいない

- ・ 前回の円卓会議からアートボランティアが育っていない。
- ・ アートボランティアになりたい人や支援して欲しい人はいるが、お互いを繋ぐ場がない。

#### ■アーティストの職場が無い

- ・ 育成は進めているようだが、その後の受け皿がないと後へ繋がらない。
- ・ アートマネジメントを大学で教えているところもあるが、卒業してアートマネージャーになりたくても仕事が無い。
- ・ まずはアートマネージャーが働く環境を整えることが大切である。

### ③取組のアイデア

#### ■アートマネージャーのインターンシップの仕組みが必要

- ・ アートマネージャーのインターンシップは大切だと思うが、対応する余力がない。芸術祭の時にインターン受入れ用の人材を用意すると良いのではないかな。
- ・ 学校の計画の立て方とインターンシップ受入れのシステムが合っていないのではないかな。学校は外部からの情報があまり得られないため、アーティストの職場から学校にアプローチすると良いかもしれない。

#### ■アートボランティアの充実

- ・ ボランティア参加者へのアンケートは必要である。
- ・ アートボランティアが参加したい、また手伝いたいと思えるような内容や支援が必要である。

#### ■現在の取組の市民への浸透

- ・ 短編映画祭や今の No Maps が市民にもっと広がると良い。

### 3) 文化資産・自然資産の保存と活用

#### ①評価点

##### ■アイヌ文化に関する取組を評価する

- ・ アイヌ文化や縄文文化について市が道と連携して保存・活用していることを評価する。
- ・ アイヌ文化の研究に積極的・具体的に取り組んでいて良い。
- ・ アイヌ文化について南北線コンコースに白老町と連携した展示が出来る。期待できる。

##### ■文化資産に関する調査を評価する

- ・ 文化資産について、調査しているとのことだったが、今のうちに調べておくことはとても大事。例えば、真駒内のオリンピックを契機につくられた建物や環境は資産になりうる。

##### ■その他

- ・ 豊平館に情報発信機能がつき、良くなった。
- ・ 北海道大学博物館は昔の理学部の建物を使っている。新しく造る博物館もそんな博物館になることを期待する。

#### ②課題点

##### ■市内でアイヌ文化に触れる機会が少ない

- ・ 市内でアイヌ文化の雰囲気あまり感じられない。オープンにしていないことで、市民の理解が進んでないのではないかな。

##### ■文化資産（歴史的建造物等）の減少

- ・ 歴史的建造物がどんどんなくなってきている。
- ・ 都心部以外は資産があまりない。

##### ■その他

- ・ 歴史的資産活用推進事業について調査結果をどのように活用していくかが不明確である。

#### ③取組のアイデア

##### ■若い方を対象にした文化資産の活用

- ・ 最近の若い人は古い建物が格好良いと思う人が多い。それならば、若い人の意見を取り入れられるようにすると良い。
- ・ 若い人向けの歴史的建造物ツアーを企画してはどうか。アート×歴建の取り組みを行うのも良い。

##### ■既存の施設の修繕・活用

- ・ 新しい施設をつくるよりも、今あるものを活用すべき。
- ・ 博物館のイメージがわからない。また新たな箱をつくるのかと思った。北海道博物館ではダメなのか。新たな施設より既存のものの修繕を優先してほしい。
- ・ 道が保有している施設を併せて活用していくことができると良い。



## (4) 創造性を蓄え、伝える

### 1) 情報発信機能の強化

#### ①評価点

##### ■市が行う情報発信を評価する

- ・ 情報ステーションの取組は良いと思う。
- ・ ウィークリープレスの取組は良い。
- ・ アプリがあるのは知らなかった。もっと活用すると良いと思う。

#### ②課題点

##### ■大通情報ステーションは市民が使わない受動的な情報発信となっている

- ・ 大通情報ステーションは見たい人が行く所になっている。広く広報するならば興味がない人に呼びかけることが大切。
- ・ 大通情報ステーションは内容が充実しているが、行かないとなかなか分からない。
- ・ 情報ステーションは市民に使われていない。資料が置いてあるだけのイメージである。
- ・ 情報ステーションの利用者は市民ではなく、観光客である可能性が高い。ステーションに訪れた人がどのくらい芸術文化の体験や鑑賞に流れているかなど、その効果がどのくらいあるのか知りたい。

##### ■市民に届く情報発信が足りていない

- ・ 芸術の森美術館のHPが見づらい。英語もないのは残念。
- ・ 昔はタウンページに文化芸術関係の情報コーナーなどがあったりして、もっと身近にアートや芸術を知る媒体があった。
- ・ 芸術にお金を落とさない市民が多い印象であるが、情報発信を行うことで、市民の意識が高まるきっかけになるのではないか。

##### ■文化芸術に係る取組自体の情報発信の不足

- ・ アンケート結果の満足度について、若い人は特に「分からない」という回答が多い。取組自体が知られていないため、発信が必要である。

##### ■子どもに伝わりにくい情報発信である

- ・ 各芸術文化施設のホームページが子どもに届かない内容だと思う。
- ・ 子ども達が社会見学のグループ行動で文化芸術施設を調べても情報がなかなか収集できない。

#### ③取組のアイデア

##### ■内容やその魅力がしっかりと伝わる情報発信とする

- ・ 市の文化芸術関連情報は、アートに長けた人がしっかりと情報整理・発信するものであると良い。
- ・ さっぽろアートアラートのHPのような一歩突っ込んだ情報発信をするために、もっと色々な媒体と連携していくべき。民間が行う情報発信を支援するような仕組みがあると良い。
- ・ 市民目線でおすすめのものなどを提案できると良い。SNSなど、市民に届くよう、手に取りやすい発信も必要である。
- ・ 活字はではなく、動画やマンガ、アプリなどを活用して発信していくべき。
- ・ コンシェルジュがいると良い。

##### ■ウィークリープレスの充実

- ・ 配る場所をもっと増やすべき（全駅に）。字が小さくて高齢者にはきついためユニバーサルフォントにし、もっと持ちやすいサイズにする。頑張っているけどまだまだ情報はある。

##### ■子どもに伝わる情報発信をする

- ・ 各芸術文化施設のホームページは子どもに伝わりやすい内容にする。

## 2) 札幌の文化芸術を通じた国内外への魅力発信

### ①評価点

#### ■演劇やオペラの外国語対応を評価する

- ・ 演劇、オペラは外国語の字幕などで海外向けに取り組んでいる。

### ②課題点

#### ■PMFについて知名度はあるが体験している市民は少ない

- ・ PMFは知っている人はまあまあいるが、行ったことのある人は少ないのではないかと。
- ・ PMFは毎年楽しみにしているが、高額であるためか市民に浸透していないと感じる。

#### ■ユネスコについて市民には浸透していない

- ・ 札幌がユネスコ創造都市ネットワークに登録していることは市民に浸透していない。
- ・ ユネスコに登録していることを市が発信していない。堂々と発信できないのか。

#### ■文化芸術の明確なイメージが札幌には無い

- ・ 小樽はガラス、江別は陶芸のイメージであるが、札幌はどのようなイメージがあるのか。
- ・ 今、世界から見た札幌のイメージは「ビール」や「オリンピック」であるが、今後は「文化芸術」のイメージを持ってもらえるようにしていきたい。

#### ■ユキテラスの魅力が少ない

- ・ ユキテラスの内容がイマイチである。初めてアートに触れる方が見た時、良い内容でないと次も来てくれない。
- ・ ユキテラスはもう少し大きく取組んでもよかった。取り組むならもっと大規模なものが良い。

#### ■その他

- ・ 市民交流プラザのこけら落としが外から持ってきたものというのは残念である。
- ・ 国内外ではなく、まずは市内への魅力発信を重視すべきである。

### ③取組のアイデア

#### ■国内外から人を呼び込む取組の実施

- ・ もっと札幌をアピールできるものが欲しい。本州からもお客を呼べるような催しがあると良い。
- ・ 市民交流プラザが仙台メディアテークのように建物自体に発信力があれば良かったが、建物で勝負できないなら中身で勝負をしていくしかない。
- ・ 札幌に縁のある世界水準のアーティストにフィーチャーして個展などやっていくと良い。
- ・ 新しい芽を探すべきである。人、場所などを国内外に発信していきたい。

#### ■魅力発信と同時にエクスチェンジも充実させる

- ・ エクスチェンジすることが大切で、世界の人を受け入れ、送り込む、交流の取り組みが必要である。受け入れは行っているが、送り出しは行っていない。作品の交換もあり、なかなか良いものだが北海道にはまだ来ていない。
- ・ イベント時に、外国語対応ができる人にも活躍してもらえる。そうすると文化に触れるきっかけになるのではないかと。

#### ■その他

- ・ 言語は世界に合わせていくべきである。
- ・ アーツカウンシル (=司令塔) が必要である。